



## 2. その他

(1) 事務費単価・職員定員の推移

(2) コスト構造

(3) 日本及び韓国の審査機関の比較

# 事務費単価の推移

単位:円

119.0

117.0

115.0

113.0

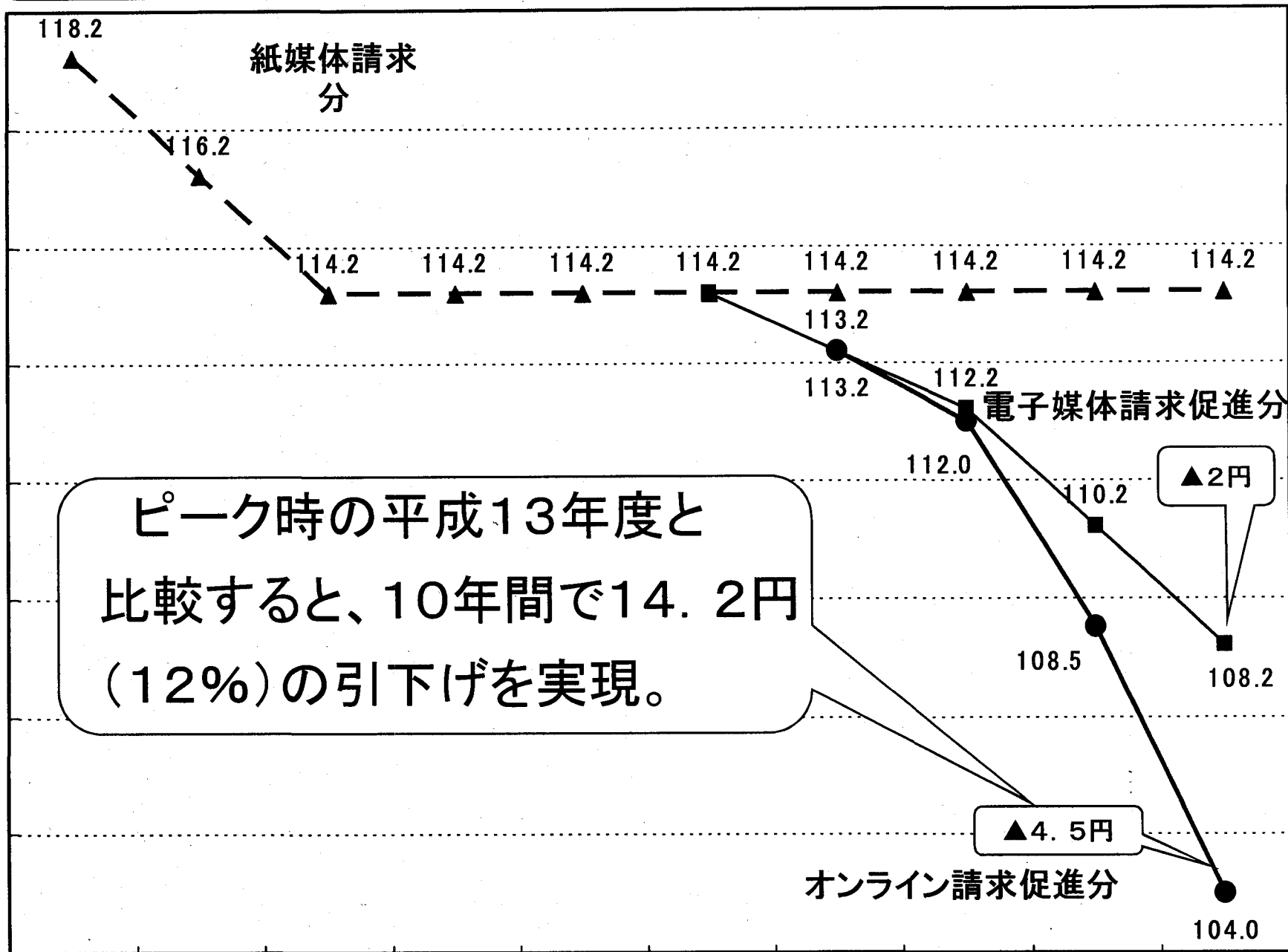
111.0

109.0

107.0

105.0

103.0



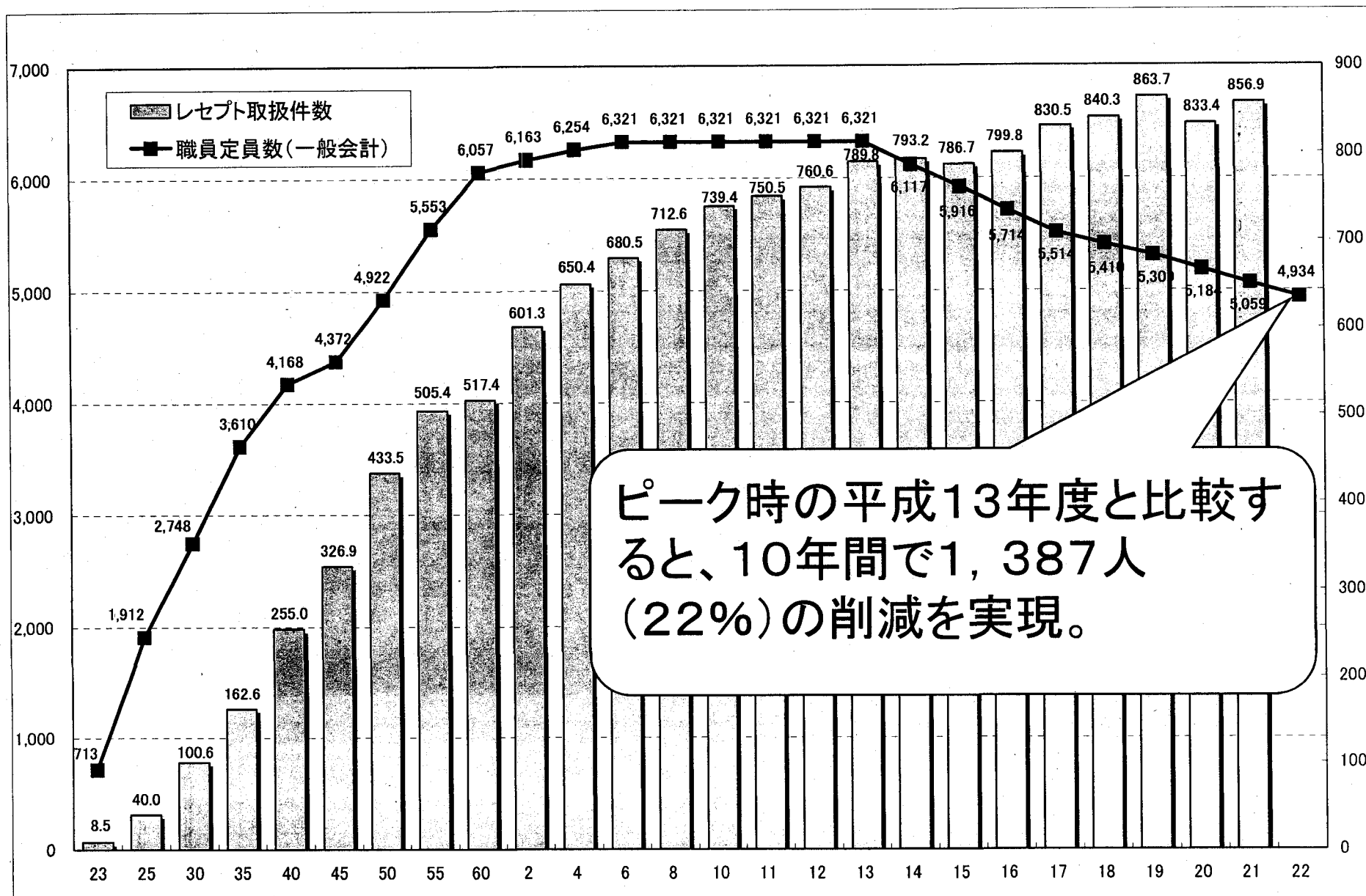
ピーク時の平成13年度と比較すると、10年間で14.2円(12%)の引下げを実現。

▲2円

▲4.5円

平成13年度 平成14年度 平成15年度 平成16年度 平成17年度 平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成22年度

# 職員定員の推移



# コスト構造

## 1 区分経理

- 支払基金は、保険者等の委託に基づく審査支払業務（「一般会計」）について、高齢者医療制度関係業務、介護保険関係業務等（「特別会計」）と区分して経理。
- したがって、審査支払業務に関する事務費のみが保険者等によって負担される仕組み。
- なお、レセプト1件当たりの手数料については、いずれの保険者等に対しても、同額で設定。

## 2 レセプトの電子化とコストの削減との関係

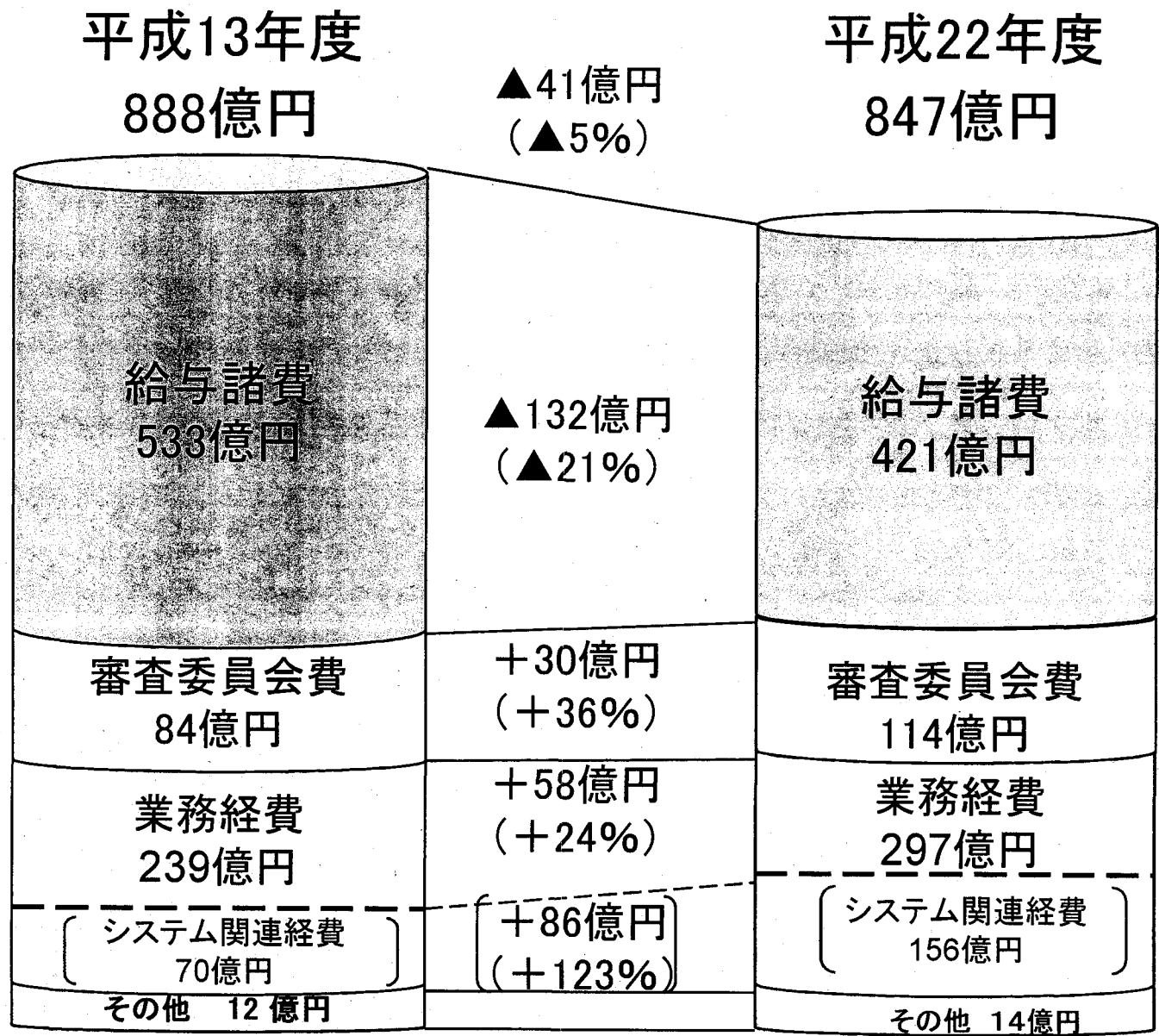
### (1) システムの開発及び維持管理の必要性

電子レセプトの審査を効果的かつ効率的に実施するためには、日進月歩のITを最大限に活用することが必要。

### (2) 職員及び審査委員の審査の必要性

いかにシステムチェックの充実が図られても、「人でなければできない審査」が存在。

# 平成13年度と平成22年度との支出予算(一般会計)の比較



	平成13年度	平成22年度
職員定員数	6,321人	4,934人 ▲22%
レセプト取扱件数	79千万件	86千万件 +9%
事務費単価	118.20円	104.00円 ▲12%

(注1) 平成22年度のレセプト取扱件数は、見込み。

(注2) 平成22年度事務費単価は、オンライン請求促進分。

(注) 主任審査委員手当(約20億円)については、平成20年度までは給与諸費として計上していたが、平成21年度からは審査委員会費として計上している。

# 日本及び韓国の審査機関の比較

○ 支払基金と健康保険審査評価院との間で事務費や職員の多寡を比較するに当たっては、

① 支払基金が請求支払も実施しているのに対し、健康保険審査評価院は審査のみ実施していること

(注) 韓国では、保険者が1か所(国民健康保険公団)のみ。

② 両者の取り扱う医療費の額が大きく異なること

(注) 健康保険審査院の取り扱う医療機関数(約78,000か所)は、支払基金の取り扱う医療機関数(約228,000か所)の約3分の1。

を勘案すべき。

項 目	支払基金	健康保険審査評価院
医療費に対する事務費の割合 ①／②	約0.46%	0.52%
①支出額 (2009年度)	約430億円	134億円
②レセプト取扱金額 (2008年度)	9.4兆円	2.6兆円
職員1人当たりの医療費 (2008年度) ③／④	18億円	15億円
③レセプト取扱金額 (2008年度)	9.4兆円	2.6兆円
④職員定員数 (2008年度)	5,184人	1,730人

(注1) 為替レートは、100ウォン=7.48円(平成21年12月)。

(注2) 支払基金の支出額は、審査に係るもののみならず支払に係るものも含むため、2009年度予算における支出額は、868億円であるが、審査に係る事務費と支払に係る事務費とがおおむね半々であることを前提とすると、審査に係る支出額は、約430億円と推計される。

[出典]「韓国の審査制度に関する現地調査報告書」(平成22年3月 社会保険診療報酬支払基金)等